



2月の園だより

令和5年2月1日

目黒区立中町保育園園長

先月、目黒中央中学校の2年生6名が職場体験で3日間来園しました。お兄さん・お姉さんが保育室に入ると、1～5歳児クラスの子どもたちは、嬉しそうに関わっていく姿がありました。園庭で一緒に鬼ごっこや砂遊びをしたり、散歩に行ったりしながら楽しく遊び「明日も一緒に遊べるんだって」と、翌日も会える事を楽しみにしていました。最終日は、5歳児が自分たちで得意になった鶴を折ってプレゼントし、名残惜しそうにお別れしていました。数日後、中学生が手紙を持って挨拶に来てくれました。手紙には、小学生の時から小さい子どもが大好きで、今回の体験は大変なこともあったけれどさらに子どもが好きになったので学んだ事を活かして将来を考えたい・保育園の朝はすれ違う先生や親御さんとの挨拶が居心地のいい空間だったので、挨拶と笑顔の大切さを実感した・5歳児が自分たちで使う物を自分たちで準備をしたり、片付けをしていて感心したという事などが書かれていて私たち職員も胸がいっぱいになりました。お兄さん・お姉さんに優しく接してもらった子どもたちにとっても貴重な体験となり、子どもたちからもお兄さん・お姉さんに手紙を書きたいという声上がり、今夢中で手紙や絵を描いています。子どもたちの相手を思う気持ちを受けとめ、後日一緒に中学校へ届けたいと思います。これからも人とのつながり、地域とのつながりを大切にしていきたいと思います。

年度末の時期となり、クラス懇談会を予定しています。進級に向け、保護者の皆様と子どもたちの1年間の成長を振り返りたいと思いますので、ぜひご参加ください。

行事予定

節分（全園児）
乳児お楽しみ会（0・1・2歳児）
身体計測
避難訓練

懇談会予定

ちゅうりっぷ組（2歳児）
ほし組（3歳児）
つき組（4歳児）
たんぼぼ組（1歳児）

お店屋さんごっこ

3・4・5歳児の異年齢で3つのグループに分かれ活動しました。各グループで何のお店をやりたいか、お店の品物や装飾はどうするかなど子どもたちと話し合いを重ねて決めました。発案も多くあり、活動を重ねることに盛り上がっていきました。当日は、グループの中でお店屋さん役とお客さん役に分かれ、やりとりを楽しみました。また、0・1・2歳児も交替でお店に遊びに来ると優しく接し、喜んでくれることが嬉しくてはりきって接客する姿も見られました。異年齢で関わりながら、全園児で楽しむことができました。

すのー あんど すいかグループ

『ぱんやさん』

様々な素材を使い、ソーセージパン、サンドウィッチ、ドーナッツ、メロンパンなど美味しそうなパンを種類豊富に作りました。



でりぼんじんごんグループ

『おまつりやさん』

くじ引き、お面屋さん、ソーラン節を一緒に踊るという3つのコーナーを作り、お祭りの雰囲気を楽しみました。



るぎあきやんでいグループ

『おばけあいすやさん』

お化け屋敷のような雰囲気のお店にしました。店員さんもおばけになりきり、アイスやケーキを売りました。





幼児クラス 戸外遊びの様子

ほし組（3歳児）

『 鬼ごっこ 』

園庭に出ると「せんせい、こおりおにやろう」と誘ってきます。ほし組は今「氷鬼」ブームです。少し前は「せんせいがおにだよ」「おいかけて」と言っていたのですが、最近は友達を誘って「だれが、おにやるの?」「おには白帽子ね（クラス帽子を裏返して白にして鬼になる）」「タッチしたらこおりだよ」と氷鬼を楽しんでいます。鬼にタッチされても走っていく友達に「タッチしたよ」と大きな声で言っても、走って行きました。「せんせい、タッチしたのに動くよ」と言い、保育士が「タッチされたの?」と聞くと「うん、ちょっとだけ」「ちょっとだけでもタッチされたね」と言うので「わかった」と氷になっています。わかってはいるけど、つかまる事に対して抵抗があります。遊びを繰り返し経験する中で、ルールを知り、友達と一緒に楽しんでいきたいと思います。

つき組（4歳児）

『 ボールを使った遊び 』

いろいろな道具を使った遊びを夢中で楽しんでいます。ボールも狙った場所に投げられるようになり、友達とパスをしあったり、ゴールを決めて得点を競うゲームを楽しんだりしています。いろいろな道具がある中で、安定感のあるタイヤをゴールとして選んでいます。1つ置いただけではボールが穴に入っても跳ねて外に出てしまうので、いくつも重ねてボールが出ないように工夫しています。最初は好きなタイヤの穴を狙って投げて楽しんでいましたが、そのうちに「そうだ」と思い付いた子どもが、重ねたタイヤが2つなら2点、3つなら3点というルールを考えました。すると、みんな一番得点の高いタイヤを狙うようになり、ゲームがより盛り上がるようになりました。タイヤまでの距離を考えながら、手元で上手くコントロールしてボールを投げ、ますます上達しています。「入った」「惜しい」と一喜一憂しながら遊んでいます。



おひさま組（5歳児）

『 地域の友達 』

先月、油面公園で近隣の保育園の5歳児と一緒に遊びました。自己紹介で「おひさま組です」と言うと、相手から「ひまわり組です」とクラス名を聞いて「なんか似てるね」「仲間だね」と嬉しそうです。その後、少し照れながらも相手に聞こえるように大きな声で一人ひとり名前を言いました。何をして遊びたいかを聞くと「氷鬼がいい」と同じ意見が出て遊びが始まりました。一緒に走りまわり、氷になった友達を助け合いながら遊んだことで、終わった後は「どこの小学校いくの」「また一緒に遊ぼうよ」と会話が弾んでいました。年が明けて散歩の帰り道のことです。公園で遊んでいた保育園の友達を見つけると「おーい、遊んだことあるよね」と手を振っていました。1回、一緒に遊んだだけでしたが、もう友達になったようでした。そして、今月は3園が集まり、2回目の交流会をしました。今回も氷鬼をすることになると、鬼同士が集まり「はさみうちにしようよ」と作戦を立てていました。回数を重ね仲間意識が芽生えてきたようでした。

